本山御正忌報恩講の改解批判

今年も余すところ二か月弱になりました。来月の当山報恩講に向けてお参りの日々が続いています。今年は今のところ天候に恵まれ、加えて暖かい日が続いていますので雨にぬれたり、寒さにぶるぶる震えたりしてのお参りのご縁はありません。天気予報によると今年の冬は暖冬とのこと。できればそうあって欲しいと思っています。

ところで、蓮如上人はご門徒に「一年に一度は手継ぎ寺の報恩講にお参りし、ご本山の御正忌報恩講にお参りしなさい」と仰っています。私も一年に一度は本山西本願寺の御正忌報恩講のご縁をつとめたいのですが、今まで一度もお参りしたことがありません。

明年（来年）は是非行きたいと思いを募らせています。

というのは、今年一月十六日御正忌報恩講ご満座でご門主さまが「新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）のご消息」（以下、新しい領解文）を発布されたからです。

御正忌報恩講には改解批判という行事が九日から十六日までの一週間ほぼ毎日おつとまりになります。

改解批判とは浄土真宗で行われる儀式で、信心の正否を批判（判断）するものです。

御正忌報恩講の参拝者が、自ら阿弥陀さまの勅命を受け取り、勅命のとおりその道理を理解して身につけた信心のいただきぶりを出言（口に出して述べる）する文言（領解文・或いは改解文ともいう）に対し、御影堂で本願寺住職或いは住職によって与奪（代理を命じられること）された勧学和上が、信心を勧め、疑いを誡められる儀式のことです。

今年の御正忌報恩講までは従来の領解文が出言され、それに対して勧学和上が改解批判されました。

明年（来年）の御正忌報恩講では果たして従来の領解文が出言されるのか、はたまた、新しい領解文が出言されるのか私にとっては興味津々です。

本山の意向によってどちらかの出言が行われます。

すでにお知らせしているとおり、新しい領解文については全国の僧侶やお同行が浄土真宗の、仏教の、教えにそぐわないものであると批判しています。一向にその問題が解決されないまま新しい領解文を出言するということは大きな問題を含んで改解批判が行われることになります。

私も新しい領解文は一刻も早く取り下げられるべきであると思っています。

娑婆の縁尽きるまでに一度は本山・御正忌報恩講のご縁をつとめたく、それが今回の領解文問題のときであるということになれば、私にとっては大きな意義を持つものになります。

ご勝縁がこのような状況になることは残念ですが、それにしてもありがたいご縁でありますようにと切に念じることです。

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

法語の世界

《原文》

身あたたかなれば、眠気さし候ふ。あさましきことなり。その覚悟にて身をもすずしくもち、眠りをさますべきなり。身随意なれば、仏法世法ともにおこたり、無沙汰油断あり。この義一大事なりと云々。

（『蓮如上人御一代記聞書』二百九十）

《現代語訳》

「体が暖かくなると眠くなる。何とも情けないことである。だから、そのことをよく心得て、体をすずしくたもち、眠気をさますようにしなければならない。体を思うがままにしていると、仏法のことも世間のことも、ともに怠惰になり、ぞんざいで注意を欠くようになる。これは心得ておくべき非常に大切なことである」と仰せになりました。

二〇二三（令和五）年 金光寺報恩講のお知らせ

日　時

十二月十五日　午前十時～　日中法要
（九区・十三区・十四区　地区）
午後六時～　逮夜法要

十二月十六日　午前十時～　日中法要
（十区・十一区・十二区　地区）

ご講師

福岡教区　早良組　真正寺住職
浄土真宗本願寺派　布教使
宗　秀　融　師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典（経本）をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要（午前十時からの法要）にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後六時からの逮夜法要にお参りください。

法要終了後のお斎については、お配りしますので、ご自宅でお召し上がりください。

浄土真宗では最も大事な法要・法座に多くの方のご参詣をお待ちしております。

是非、ご勝縁をお結びください。